

## もんぜんぶら座敷地の利活用検討（答申素案） 《新田町交差点周辺のまちづくり》

### 1 はじめに

新田町交差点周辺エリアは、長野駅から善光寺を結ぶ善光寺表参道のほぼ中間に位置し、もんぜんぶら座や生涯学習センターなどの公共施設が立地しており、中心市街地における市民活動や交流、生涯学習の拠点となっております。

しかしながら、もんぜんぶら座は施設の老朽化が著しく、令和12年度末に廃止が予定されていることから、当該施設解体後の敷地の利活用について、市から長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会に対して諮問がありました。これを受け、委員会に検討部会を設置し、もんぜんぶら座敷地の利活用及び当該施設の既存機能取り扱い、新田町交差点周辺のまちづくりについて検討を行ってまいりました。

### 2 まちづくりの方向性

市が令和4年2月に策定した長野中央西地区市街地総合再生基本計画では、当該エリアの都市の将来像を「市民活動と情報発信により中心市街地の結節点となる地域」と位置付けており、もんぜんぶら座の廃止後も引き続き、市民活動や交流の拠点として、その機能を維持していくことが必要です。

また、当該エリアが子育て世帯や若者など、多くの人々が集う、まちなかの居場所となり、幅広い世代の交流・学びの拠点となるよう、既存機能の拡充に加え、まちの魅力につながる新たな機能の導入を図り、官民協働によるまちづくりを行っていくことが重要です。

### 3 まちづくりへの提言

- ・もんぜんぶら座の既存機能のうち、市民活動・交流支援、生涯学習支援、子育て支援機能は、当該エリアに残して機能拡充を検討するとともに、新たな機能として、図書館機能やギャラリー機能などの文化教育機能や観光・情報発信機能、商業機能の導入を検討すること。  
また、新田町交差点周辺施設の機能再編や再開発事業など都市機能更新に合わせた複合施設の整備により、機能の導入を検討すること。
- ・もんぜんぶら座の既存機能のうち、就労支援、生活等支援、障害者支援、外国人支援、観光・情報発信機能(事務所)については、エリア外への移転を検討すること。
- ・もんぜんぶら座の既存機能のうち、商業機能は、周辺の商業環境等を踏まえ、取り扱いを検討すること。
- ・もんぜんぶら座の敷地は、既存機能の移転により、建物解体後に自由な土地活用が可能となることから、民間活力を活用し、長野の食や文化などが体験できる場や、来街目的となる魅力的な商業など、新たな魅力につながる機能の導入を検討すること。